

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0202
鉄鋼用語(試験)
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JICQA	熊井	4.1	1001	ge	要求事項の大元となる「注文書」とは何を指すのか、定義が必要ではないでしょうか。		回答	Z 8301の16.5.2に“自明でない用語、一般には知られていない用語及び文脈によって異なる解釈ができる用語は、その定義を与えて概念を明確にする。”とあり、“注文書”は、一般的に知られている用語と考えます。ちなみに、鉄鋼JISでは、一般受渡条件を規定しているG 0404において、用語定義していません。	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JICQA	熊井	4.2.1	2103 2104	ed	「JIS Z 2242」は「JIS Z 2241」の誤記と思われます。	「JIS Z 2241」	採用	ありがとうございました。	同左
三者委員会	2023/12/20	4003	鉄連	事務局	4.2.1	2116	ed	2116はひずみに関する定義であり、伸びに関する定義ではない。	用語を以下に修正する。 真ひずみ 対数伸び→対数ひずみ 自然伸び→自然ひずみ	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	農工大	桑原	4.2	2118	te	用語欄の「塑性ひずみ」を削除(通常、「塑性ひずみ」は対数ひずみとして計算することが一般的なため)	2116の用語欄に移動 対応英語欄に「plastic strain」を追加	修正採用	Z 2253(薄板金属材料の加工硬化指数試験方法)及びZ2254を確認しました。 Z 2253では「真ひずみ」と「塑性ひずみ」を同じ定義としていませんので、規格利用者の理解の齟齬を避けるため塑性ひずみを2116移動するのは避けたいと思います。 定義文を次のように修文し、“塑性ひずみ”の意味を明確にするため注釈2を追加。 「全伸び(ひずみ)から弾性伸び(ひずみ)を差し引いた伸び(ひずみ)」 注釈1 弾性伸び(ひずみ)は全伸び(ひずみ)のうち弾性成分であって、応力σを縦弾性係数(ヤング率)で除した値のことである。 注釈2 塑性伸びを原標点距離で除して百分率で表した値を、塑性ひずみと呼ぶ。 plastic strainを対応英語に追	同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0202
鉄鋼用語(試験)
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4005	農工大	桑原	4.2	2121	te	定義欄の「公称応力と伸び(ひずみ)」	「公称応力と伸び(ひずみ)もしくは真応力と真ひずみ」に修正	修正採用	Z 2257(十字形試験片を用いる金属板材の二軸引張試験方法)を確認しました。規格利用者の理解の齟齬とならないように、真応力と真ひずみとの関係に関する定義も必要と考えます。以下に修正。 「公称応力と伸び(ひずみ)との関係又は真応力と真ひずみとの関係」に修正します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4006	JICQA	熊井	4.2.1	2127	ed	「塑性変形が生じる点」はJIS Z 2241の定義に合わせて「塑性変形が生じるひずみ」とすべきかと定義欄の「応力」	「塑性変形が生じるひずみ」	採用	ありがとうございました。	同左
三者委員会	2023/12/20	4007	農工大	桑原	4.2	2136	te	定義欄の「公称応力」	「公称応力」に修正	原案のまま	規格利用者の理解の齟齬とならないように、Z 2241(金属材料引張試験方法)3.10.1(引張強さ)の定義と整合させています。 →コメントNo.4007、4013、4014及び4015も同様。	同左
三者委員会	2023/12/20	4008	農工大	桑原	4.2	2146 定義本文	te	定義欄の「試験片の幅方向真塑性ひずみと厚さ方向真塑性ひずみとの比」	「除荷後の試験片の厚さ方向真ひずみに対する幅方向真ひずみの比」に修正	原案のまま	規格利用者の理解の齟齬とならないように、Z 2254 3.1と整合させ同じ定義としています。 尚、Z 2254:2008では「試験片の幅方向真ひずみと厚さ方向真ひずみとの比」としていましたが、Z 2254:2021で「真ひずみ」を対応国際規格(ISO10113:2020)に整合させ「真塑性ひずみ」に修正しています。ISO10113:2020におけるrの定義では、 <u>ratio of the true plastic width strain to the true plastic thickness strain in a test piece that has been subjected to uniaxial tensile stress calculated using Formula (1)となっており</u> ます。 (No. 4006と同様)	同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0202
鉄鋼用語(試験)
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4009	農工大	桑原	4.2	2146 注釈2	te	定義欄注釈2を右記のように修正	「通常、r値は一樣伸び以下の伸び(ひずみ)において測定する。」	修正採用	「ひずみ量が15%、20%などが用いられる。」よりもご提案の内容は重要と思います。ただし、「一樣伸び」はZ 2254規格にはないため、規格利用者の理解の齟齬を避けるため、Z 2254 3.1注釈2に整合させ次のように修正します。 「通常、r値は、均一な塑性ひずみが生じている範囲にだけ有効である。」	同左
三者委員会	2023/12/20	4010	農工大	桑原	4.2	2150	te	番号2150として用語「二軸引張試験」(2021年に制定された)を追加	定義欄「一枚の金属板材から切り出した、板厚が均一な十字形試験片に直交二方向の引張力を負荷し、金属板材の二軸応力下での応力-ひずみ曲線を測定する試験」 注釈1 JIS Z 2257 参照 対応英語「Biaxial tensile testing method」	採用	ありがとうございます	同左
三者委員会	2023/12/20	4011	東理大	田中	4.2.4	2402	ed	用語の送り仮名に合わせる?	押し込み試験 → 押し込み試験 押し込み硬さ試験 → 押し込み硬さ試験	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4012	東理大	田中	4.2.5	2502	ed	“.”は要りますか?	(LDRと略称) → (LDRと略称)	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4013	農工大	桑原	4.2.5	2502	te	定義欄注釈2の「LDR」	「LDR(Limiting Drawing Ratio)」に修正	修正採用	2510 コニカルカップ試験では、コニカルカップ値(CCV, conical cup value)としていますので、書き方を整合させ、(LDRと略称)を修正し、(LDR, limiting drawing ratio)とします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4014	農工大	桑原	4.2.5	2505	te	定義欄「…最大ひずみと、その90°方向最小ひずみとを、様々なひずみ条件下で測定し、2次元に表した線図」	「…最大主ひずみe1と、その90°方向最小主ひずみe2とを、様々なひずみ条件下で測定し、e1 - e2座標系に表した線図。」に修正	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4015	農工大	桑原	4.2.5	2506	te	定義欄「球形の端部をもったパンチ」	「球頭パンチ」に修正	修正採用	規格利用者の理解の齟齬を避けるため、Z 2257 箇条5(原理)と整合した定義としています。ただし、球頭パンチは一般に使われていますので、「球形の端部をもったパンチ(球頭パンチ)」と修正します。 (No.4006と同様)	同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0202
鉄鋼用語(試験)
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4016	農工大	桑原	4.2.5	2507	te	定義欄「円すい状のパンチ」	「円すい状もしくは平頭のパンチ」に修正	原案のまま	Z 2256(金属材料の穴広げ試験方法)には平頭のパンチの記載がないため、規格利用者の混乱を避けるため細分箇条 3.1(穴広げ率)と同じ定義を維持したいと思います。今後、ISO 16630(穴広げ試験)はTC 164/SC 2で審議されますので、平頭のパンチについて日本国内で議論し検討したいと思います。	同左
三者委員会	2023/12/20	4017	農工大	桑原	4.2.5	2508	te	定義欄「…穴の径の拡大量と初期の穴の径との比率」	「…穴の径の増加量の初期穴径に対する比率」に修正	原案のまま	規格利用者の理解の齟齬を避けるためZ 2256 3.1と同じ定義とします。(No.4006と同様)	同左
三者委員会	2023/12/20	4018	農工大	桑原	4.2.5	2510	te	定義欄「球底パンチ」	「球頭パンチ」に修正	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4019	東理大	田中	4.2.6	2602	ed	送り仮名の修正	表わした抵抗 → 表した抵抗	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4020	東理大	田中	4.2.6	2603	ed	“片”は必要?	試験片でぜい性 → 試験でぜい性	原案のまま	直後に“を用いて”とありますので、原案のままとします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4021	東理大	田中	4.2.6	2608	ge	注釈1の“破壊じん性を K_c で表す。”の文章は不要では?		採用	削除します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4022	東理大	田中	4.2.6	2608	ge	図1中に“ σ ”の説明がない。		採用	図の σ に“(引張応力)”を追加します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4023	東理大	田中	4.2.6	2612	ge	文末に“(2613参照)”を挿入?	落重試験(drop weight test) (2613参照)	修正採用	落重試験(2613参照) とします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4024	東理大	田中	4.2.6	2612	ge	文末に“(2614参照)”を挿入?	落重引裂試験(drop weight tear test, DWTT) (2614参照)	修正採用	落重引裂試験(2614参照) とします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4025	東理大	田中	4.2.7	2718	ed	“a”を下付添え字に修正	$\sigma_a \rightarrow \sigma_a \quad \tau_a \rightarrow \tau_a$	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4026	東理大	田中	4.2.7	2728	ed	対応英語末尾の“,”を削除	strength ratio, → strength ratio	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4027	東理大	田中	4.2.8	2809	ed	送り仮名の修正	突き合せ → 突き合わせ	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4028	東理大	田中	4.2.8	2811	ed	送り仮名の修正	突き合せ → 突き合わせ	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4029	東理大	田中	4.2.8	2816	ed	JIS規格番号の修正	JIS Z 227 の → JIS Z 2271 の	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4030	東理大	田中	4.2.9	2901	ed	漢字に変更	または、 → 又は、	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4031	東理大	田中	4.2.10	3008	ed	字句の修正?	継目なし鋼 → 継目無鋼	修正採用	JIS B 8241(継目なし鋼製高圧ガス容器)の規格名に整合しています。注釈1を、下記に変更します。注釈1 継目なし鋼製高圧ガス容器(JIS B 8241)に適用される。	同左
三者委員会	2023/12/20	4032	東理大	田中	4.2.10	3028	ed	送り仮名の修正	に引張り、 → に引つ張り、	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4033	東理大	田中	4.2.10	3030	ed	送り仮名の修正	に引張り、 → に引つ張り、	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0202
 鉄鋼用語(試験)
 処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4034	東理大	田中	4.3.1	4106	ed	酸化数を加筆	塩化銅アンモニウム → 塩化銅(II)アンモニウム	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4035	東理大	田中	4.3.2		ed	送り仮名に不整合が見受けられるので、チェックが必要。	・・・焼入 ↔ ・・・焼入れ	採用	4204の注釈1: 炎焼入及び高周波焼入の場合→炎焼入れ及び高周波焼入れの場合	同左
三者委員会	2023/12/20	4036	東理大	田中	4.4.3	5301	ed	英文スペルの修正	sulphuric → sulfuric	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4037	東理大	田中	4.4.4	5407	ed	酸化数を加筆	硫酸銅溶液 → 硫酸銅(II)溶	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4038	東理大	田中	4.4.4	5407	ed	英文スペルの修正	sulphate → sulfate	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4039	東理大	田中	4.4.4	5414	ed	漢字に変更	はさみ, → 挟み,	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4040	東理大	田中	4.5.1	6103	ed	平仮名に変更	厚さ毎に → 厚さごとに	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4041	東理大	田中	4.5.3	6305	ed	英文スペルの修正	ultraviolet → ultraviolet	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4042	東理大	田中	4.5.4	6403	ed	送り仮名の修正	吸出し, → 吸い出し,	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4043	東理大	田中	4.5.6	6602	ed	不整合?	アコースティック ↔ アコースティック	採用	アコースティック に統一します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4044	農工大	桑原	参考文献		te	右記を加筆	JIS Z 2257 十字形試験片を用いる 金属板材の二軸引張試験方法	採用		同左

原案審査 (I)	原案審査 (II)	規格検討 会	三者委員 会
-------------	--------------	-----------	-----------

対象規格	JIS G0415 鋼及び鋼製品－検査文書
------	--------------------------

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JSA	堤	1		te	現行規格に記載されている「ただし、受渡当事者間の合意によって、ほかの製品にも適用できる。」が削除され、対応国際規格と整合させて、「この規格は、その他の金属製品に適用される場合がある。」に変更されています。 注記は、参考情報であり、Z8301:2019の14.5では、適用する範囲の表現形式として、“この規格は、---にも適用可能である。”を記載していますので、注記1ではなく、適用範囲の本文に、「この規格は、その他の金属製品にも適用可能である。」と記載してはどうでしょうか。		原案のまま	今年度改正したG0404及びG0416も原案同様に注記として記載しています。これらの3規格は、今後、製品規格で全て引用されるため、記載の整合性を優先させて下さい。	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JSA	堤	1		ed	【注記1として記載する場合】この注記は、対応国際規格に記載されており、JISでは、字句を追加しているだけです。その箇所だけ点線の下線を施してはどうでしょうか。	「金属」だけに点線の下線を施す。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JICQA	熊井	3		ge	要求事項の大元となる「注文書」とは何を指すのか、定義が必要ではないでしょうか。		回答	G 0202のNo.4001同様。	同左
三者委員会	2023/12/20	4004	JSA	堤	6		ed	Z 8301:2019において、「---する。」は要求事項の表現形式として規定されておりますが、これらの箇所は、現行規格のように「---しなければならない。」の方がよいのではないのでしょうか。	「提出する」→ 「提出しなければならない」 (2か所)	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	JSA	堤	7		ed	Z 8301:2019において、「---する。」は要求事項の表現形式として規定されておりますが、これらの箇所は、現行規格のように「---しなければならない。」の方がよいのではないのでしょうか。	「記載する」→ 「記載しなければならない」 「確認する」→ 「確認しなければならない」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4006	JSA	堤	附属書JA 1	d)欄	ed	字句修正	「JISで規定された製品」 →「JISで規定した製品」	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査 (I)	原案審査 (II)	規格検討 会	三者委員 会
-------------	--------------	-----------	-----------

対象規格	JIS G0415 鋼及び鋼製品－検査文書
------	--------------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4007	JSA	堤	附属書JA 4	d)欄	ed	字句修正	「次回の改正時に、削除することを記載している。」→ 「JISは、次回の改正時に注記を削除することを記載している。」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4008	JSA	堤	附属書JA 5	d)欄	ed	字句修正	「次回の改正時に、削除することを記載している。」→ 「JISは、次回の改正時に注記1及び注記2を削除することを記載している。」	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格	JIS G 3129
	鉄塔用高張力鋼鋼材

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	14	b)	ed	a)に合わせ、読点を削除	によって、再試験を行い、 → によって再試験を行い、	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格	JIS G 4109 ボイラ及び圧力容器用クロムモ リブデン鋼鋼板
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用	

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JICQA	熊井	5.2.1.1	表2注a)	te	「……。ただし、注文者の指定がないときは、……」とは、「受渡当事者間の協定によって圧延のままでするか、又は協定された熱処理を行う。」がなかった場合と理解しました。ただ、「注文者の指定」を「焼なまし又は焼ならし焼戻しに代わる熱処理を注文者が行う」指定ととられるリスクがあり、「注文者の指定」が何を指すのか、より明確化した方がよいのではないかと。	注a)「焼なまし又は焼ならし焼戻しに代わる熱処理を注文者が行う場合、鋼板は、受渡当事者間の協定によって圧延のままでするか、又は協定された熱処理を行う。ただし、 <u>受渡当事者間の協定の中に熱処理に関する</u> 注文者の指定がないときは、SCMV1, SCMV2及びSCMV3は圧延のままでし、SCMV4, SCMV5及びSCMV6は応力除去焼なましを行う。	原案のまま	“注文者の指定”は、5.2.1.3(熱処理の指定)及び簡条15(注文者によって提示される情報)に明確に規定しています。	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	7	b), c) 注記	ge	一つの簡条内に二つの注記がありますが、なぜ付番しないのか。[b)とc)が同じ文章なので付番しない？」		採用	注記をc)の後の1か所にし、簡条全体の注記に様式変更します。	同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格: JIS G 3312
 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼
 処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	3.4		ed	読点を挿入	前提に安定して → 前提に、安定して	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JICQA	熊井	7 c)		te	サイクル腐食試験を協定している組織様をお見受けしないので、当初導入の目的を既に終えているのであれば、削除をご検討されてはどうでしょうか。		採用	次回の定期見直しまでに実態調査及び検討を行い、対応を進めてまいります。	同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JFE鋼板	加藤	8	表5	te	表5-注a) ⇒ 誤植とありますが、「Y35」の記載になっていま	“Z35”と修正する。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	11.3	a) 1)	ed	読点を挿入	a2 とし耳のび → a2 とし、耳のび	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員

対象規格	JIS G 3318 溶融亜鉛-5%アルミニウム合 金めっき鋼板及び鋼帯
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用	

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	3.2		ed	読点を挿入	前提に安定して → 前提に, 安定して	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JICQA	熊井	7 c)		te	サイクル腐食試験を協定している組織様をお見受けしないので、当初導入の目的を既に終えているのであれば、削除をご検討されてはどうか。		採用	次回の定期見直しまでに実態調査及び検討を行い、対応を進めてまいります。	同左
三者委員会	2023/12/20	4003	東理大	田中	11.3	a) 1)	ed	読点を挿入	a2 とし耳のび → a2 とし, 耳のび	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

対象規格	JIS G 3322 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用	

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	まえがき		ge	他規格の表現に合わせて修正?	産業標準原案を添えて → 産業標準の案を添えて	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	3.2		ed	読点を挿入	前提に安定して → 前提に, 安定して	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JICQA	熊井	7 c)		te	サイクル腐食試験を協定している組織様をお見受けしないので、当初導入の目的を既に終えているのであれば、削除をご検討されてはどうでしょうか。		採用	次回の定期見直しまでに実態調査及び検討を行い、対応を進めてまいります。	同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	11.3	a) 1)	ed	読点を挿入	a2 とし耳のび → a2 とし, 耳のび	採用		同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 3505
軟鋼線材
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JIC- QA	熊井	4		te	「キルド鋼指定の場合は、種類の記号の末尾にKを付記する。」のキルド鋼は、注記の「鋼中に脱酸材として添加されけい素が…」とあり、キルド鋼指定は、メッキ線の線材のSiキルドに限定(AIキルド鋼は除外)されることを想定していると思われます。	「種類の記号の末尾にKを付記することは、めっき線の線材の場合、鋼中に脱酸剤として添加されるけい素が、めっき被膜形成に影響を及ぼすことから、 <u>けい素での脱酸を行った場合にキルド鋼指定されることがある</u> ことを背景としている。」まで書いておくことが規格として理解しやすく、望ましいと考えます。	原案のまま	この注記は、旧規格では解説に記載していた内容を本文に記載しています。 キルド鋼指定の場合の種類記号の末尾へのKの付与は、Siの含有によるメッキ性への影響についての懸念から、Siキルド鋼を識別することを目的としています。 なお、取引の実態においては、AIキルド鋼指定の場合もKを付与しており、規定内容は、旧規格のままとしております。	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JSA	堤	附属書JB 1、3及び4	b)	ed	対応国際規格の対応する箇条番号の前の行に ISO 16120-1 ISO 16120-2 を記載してはどうでしょうか		修正採用	b) 対応国際規格の対応する箇条番号を、次のとおりに修正します。 ・箇条1: ISO16120-1 1 ISO16120-2 1 ・箇条3: ISO16120-1 3 ISO16120-2 3 ・箇条4: ISO16120-2 4	同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 3506
硬鋼線材

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	堤	JSA	附属書JB 1、3及び4	b)	ed	対応国際規格の対応する箇条 番号の前の行に ISO 16120-1 ISO 16120-2 を記載してはどうでしょうか		修正採用	b) 対応国際規格の対応する箇条 番号を、次のとおりに修正しま す。 ・箇条1: ISO16120-1 1 ISO16120-2 1 ・箇条3: ISO16120-1 3 ISO16120-2 3 ・箇条4: ISO16120-2 4	同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 3455
高圧配管用炭素鋼鋼管

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JSA	堤	JB 3	d)	ed	字句修正	「JISでは、用語及び定義の箇条を追加し、JIS G 0201, JIS G 0202及びJIS G 0203を追加している。」→ 「JISでは、用語及び定義の箇条を追加し、JIS G 0201, JIS G 0202及びJIS G 0203を引用している。」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	JB 8	e)	ed	読点を挿入	可能であり現状まま → 可能であり、現状まま	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	東理大	田中	JB 9.1	e)	ed	読点を挿入	招くため現状まま → 招くため、現状まま	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	JB 9.2	e)	ed	読点を挿入	招くため現状まま → 招くため、現状まま	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	東理大	田中	JB 12.2	d)	ed	読点を“,”に修正	規定を追加し、 → 規定を追加し、	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4006	東理大	田中	JB 12.2	d)	ed	読点を“,”に修正	管状とし、 → 管状とし、	採用		同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

対象規格 JIS G 3456
高温配管用炭素鋼鋼管
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JICQA	熊井	4	表1		「STPT480は継目無く製造することが表1で一目瞭然にわかるように工夫できませんか。」		採用	表1を修正。(種類の記号の列で、STPT480は、STPT370及びSTPT410とは別の行に区分)	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	JA.2	a)	ed	句点に変更?	検査する、ただし、 → 検査する、ただし、	採用	12.4 b)1)にも同じ注記あり、修正いたします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JSA	堤	JB 3	d)	ed	字句修正	「JISでは、用語及び定義の簡条を追加し、JIS G 0201, JIS G 0202及びJIS G 0203を追加している。」→ 「JISでは、用語及び定義の簡条を追加し、JIS G 0201, JIS G 0202及びJIS G 0203を引用して限定除している。」 → 限定している。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	JB 5	d)	ed	“除”を削除	可能であり現状まま → 可能であり、現状まま	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	東理大	田中	JB 8	e)	ed	読点を挿入	招くため現状まま → 招くため、現状まま	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4006	東理大	田中	JB 9.1	e)	ed	読点を挿入	招くため現状まま → 招くため、現状まま	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4007	東理大	田中	JB 9.2	e)	ed	読点を挿入	招くため現状まま → 招くため、現状まま	採用		同左

表 1—種類の記号及び製造方法を表す記号

種類の記号	製造方法を表す記号		
	製管方法	仕上げ方法	表示
STPT370 STPT410 STPT480	継目無し: S	熱間仕上げ: H 冷間仕上げ: C	製造方法を表す記号の表示は、簡条 14 b) による。
	電気抵抗溶接: E	熱間仕上げ: H 冷間仕上げ: C 電気抵抗溶接まま: G	
STPT480	継目無し: S	熱間仕上げ: H 冷間仕上げ: C	

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員

対象規格: JIS G 0589
 鋼管の全周自動超音波厚さ検査方法
 処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JSA	堤	4.3		ed	字句修正	「技術者によって行われなければならない」 →「技術者が行わなければならない」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JSA	堤	4.3		ed	字句修正	「技術者によって監督されなければならない」 →「技術者が監督しなければならない」	採用	その下段落にある「非破壊試験技術者によって承認されなければならない。」も、「非破壊検査技術者が承認しなければならない。」と修正します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JSA	堤	4.3		ed	字句修正	「このことを」→ 「これらのことを」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	JSA	堤	5.4		ed	字句修正	「機能を持つ警報システム」→ 「機能をもつ警報システム」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	JSA	堤	5.4		ed	字句修正	「手動で行えるものとする」→ 「手動で行う」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4006	JSA	堤	附属書JA 6.2	c)欄	ed	字句修正	「変更」→「追加」	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0560
鋼のサルファプリント試験方法

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	2		ed	順序を修正(JIS B 0601を上 の行に移動)		採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	JSA	堤	3		ed	JIS G 0202に点線の下線が必 要では		採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JSA	堤	4.3		ed	字句修正	「製品規格に規定」→ 「製品規格の規定」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	5.3		ed	読点を挿入?	よって試験断面から → よって、試験断面から	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	東理大	田中	6.2		ed	平仮名に変更	濃度を薄める → 濃度をうすめる	採用	JIS G 1216-3:2022でうすめると なっていることを確認しました。	同左
三者委員会	2023/12/20	4006	JSA	堤	6.2	表1 注a)	ed	「ISO 4968」を「対応国際規格」 に修正してはどうか?		採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4007	JSA	堤	6.2	表1 注a)	ed	「稀」は常用漢字ではありません。 平仮名に変更	「稀」→ 「まれ」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4008	東理大	田中	6.2	表1 注a)	ed	平仮名に変更	稀である。→ まれである。	修正採用	他の規格、例えばJIS Q10003:2019及びJIS X9251:2021 で「まれ(稀)」と記 載されていたので	同左
三者委員会	2023/12/20	4009	東理大	田中	7		ed	平仮名に変更	指定が無い → 指定がない	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4010	JSA	堤	8		ed	字句修正	「圧延または鍛伸方向」 →「圧延若しくは鍛伸方向」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4011	JSA	堤	9		ed	字句修正	「熱間シャー切断またはガス切 断」→	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4012	東理大	田中	9		ed	漢字に変更	切断またはガス切断 → 切断又はガス切断	採用	4011と同じご指摘	同左
三者委員会	2023/12/20	4013	JSA	堤	9		ed	字句修正	「ガス切断が行われた」→「ガス 切断を行った」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4014	JSA	堤	10.4		ed	字句修正	「アルコール又はアセトンなど」 →	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4015	東理大	田中	10.1	b)	ed	読点を挿入?	例えば次のような → 例えば、次のような	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4016	東理大	田中	10.1	b)	ed	文章に述語が欠落		採用	次のように修文します。 例えば、次のような工具を用い る場合である。	同左
三者委員会	2023/12/20	4017	東理大	田中	10.3		ed	漢字に変更	すべりやすく → 滑りやすく	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4018	東理大	田中	11.6		ed	平仮名に変更?	薄いサルファプリント → うすいサルファプリント	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4019	東理大	田中	11.6		ed	平仮名に変更?	より薄い → よりうすい	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4020	東理大	田中	11.6	注3)	ed	本文中に、注符号 ⁽³⁾ が欠落		採用	本文を次のように修文します。 試験面を前の試験の影響がなく なるまで再研削する ⁽³⁾ 。	同左
三者委員会	2023/12/20	4021	東理大	田中	12	表2 “S _i ”	ed	平仮名に変更	淡く着色 → うすく着色	採用	「淡く」の読みは「あわく」です が、意味が明瞭でないので、同 じ意味である「うすく」にします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4022	東理大	田中	12	表2 備考	ed	漢字に変更	すべて大文字 → 全て大文字	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4023	東理大	田中	A.2		ed	“徐々に”の語順を変更?	徐々に表面から中心に向けて増加 する。→ 表面から中心に向けて 徐々に増加する。	採用		同左

原案審査 原案審査 規格検討 三者委員会

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS G 0560
鋼のサルファプリント試験方法

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4024	鉄連	事務局	A.2		ed	同じ文中に“徐々に”2つある。	図A.1のように表面から中心に向けて徐々に増加する。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4025	東理大	田中	JA 6	d)列	ed	平仮名に変更	クエン酸 → くえん酸	採用	JISでは「クエン酸」と「くえん酸」の両方が使われていますが、「くえん酸」が使われているJISの数の方が多く、例えばJIS G1216-3:2022でも「くえん酸」として使いましたので採用とします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4026	東理大	田中	JA 6, 7, 11	d)列	ed	読点を挿入?	踏襲し～ → 踏襲し、～	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4027	東理大	田中	JA 11	d)列	ed	“間”を挿入	30 秒から 10 分 → 30 秒間から 10 分間	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4028	鉄連	事務局	附属書JA	11 d)	ed	他の箇所が全て“踏襲し”であるが、この一か所だけが“踏襲して”となっている。	踏襲して、一踏襲し、	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4029	JSA	堤	附属書JA 6~12	e)欄	ed	「一」となっていますが、JISと対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策を記載できない字句修正		修正採用	e)欄を「一」としているd)欄については、「技術的差異はない」を追加します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4030	JSA	堤	附属書JA 11	d)欄	ed		「細分簡条4.3に同様の記載があるため、JIS G 0560:2008を踏襲しJISでは不要とした。」→「JISでは、4.3に同様の記載があるため、JIS G 0560:2008を踏襲し、不要とした。」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4031	JSA	堤	附属書JA 13	e)欄	ed	日本独自の規定である。の後に、「ISOへの提案をせず、そのまま維持する。」を追加してはど		採用		同左

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

対象規格	JIS Z 2244-1 ヒッカース硬さ試験—第1部:試験方法
------	------------------------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	JSA	堤	1		ed	字句修正	「本規格で規定されるヒッカース硬さは」→ 「この規格で規定するヒッカース硬さは」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	2		ed	順序を修正 (JIS B 7725, JIS B 7735をJIS G 0202の上に移動)		採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	JSA	堤	3		ed	JIS G 0202に点線の下線が必要では		採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	鉄連	事務局	7.5		ed	次の注記は対応国際規格には記載がない 注記 試験片を樹脂に埋め込む場合には、樹脂の硬化に伴う発熱、プレス成形の際の圧力、温度などが試験片の硬さに影響する	下線追加	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	JSA	堤	8.1		ed	字句修正	「この範囲以外」→ 「この範囲外」	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4006	東理大	田中	8.8	図2	ed	句点を挿入?(3か所)	(チタン合金を除く) → (チタン合金を除く。)	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4007	JSA	堤	8.11		ed	字句追加	「皮膜に関する規格」→ 「皮膜に関する規格によって行	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4008	東理大	田中	C.1	式(C.2)	ge	記号 HV_1, \dots, HV_n の説明は要りませんか?		採用	Z 2245(ロックウェル硬さ試験) 参考に、式(C.2)の下に、次のような HV_1, \dots, HV_n の説明を記載します。 ここで、 HV_1, \dots, HV_n : 個々の測定硬さ n: くぼみの数	同左
三者委員会	2023/12/20	4009	東理大	田中	D.2		te	包含係数では?	換算係数 → 包含係数	採用	他の硬さ試験において包含係数と使われていることを確認しましたZ 8404-1(測定の不確かさ)においても包含係数となっている	同左
三者委員会	2023/12/20	4010	東理大	田中	H.1		ed	読点を挿入	望ましいので低試験力 → 望ましいので、低試験力	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4011	東理大	田中	H.2.1		ed	語順の修正と句点の削除	である。(H.4 参照。) → である(H.4 参照)。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4012	東理大	田中	H.2.4		ed	字句の修正	攪拌および溶液組成 → かくはん(攪拌)及び溶液組成	採用	G0553:2019において”かくはん(攪拌)”となっていました。	同左
三者委員会	2023/12/20	4013	東理大	田中	H.3.4		ed	平仮名に変更	概ね90° → おおむね90°	採用	両方用いられていますが、”おおむね”の方が圧倒的に使われている数が多いので採用としま	同左
三者委員会	2023/12/20	4014	JSA	堤	H.3.6		ed	「騒音も硬さ測定の誤差の原因となり、」と記載されていますが、「騒音」が硬さ測定誤差の直接的原因ではないので、「騒音による振動も、」でいかがでしょう		採用		同左

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4015	東理大	田中	H.3.6	図H.1	ed	平仮名に変更	試験する時の → 試験するときの	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4016	東理大	田中	H.3.7		ed	重複する読点を削除	比較する場合、 → 比較する場合、	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4017	東理大	田中	H.3.8		ed	“で”を削除	おいてで最低 → おいて最低	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4018	JSA	堤	H.3.8		ed	字句削除	「場所においてで」 →「場所において」	採用	4017と同じ	同左
三者委員会	2023/12/20	4019	東理大	田中	H.3.8		ed	“n”を斜体に修正	n → <i>n</i>	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4020	東理大	田中	H.3.8, H.4		ed	字句の修正 (“相対標準偏差”が望ましい。)	変動計数 → 変動係数(相対標準偏差)	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4021	東理大	田中	JA 1	d)列	ed	“は”を削除	皮膜には適用する。 → 皮膜に適用する。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4022	JSA	堤	附属書JA	d)欄	ed	ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されておりません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？		修正採用	4026~4046に記載します	同左
三者委員会	2023/12/20	4023	JSA	堤	附属書JA 1及び附属書B	e)欄	ed	G0560のように、日本独自の規定である。の後に、「ISOへの提案をせず、そのまま維持する。」を追加してはどうでしょうか？		採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4024	JSA	堤	附属書JA 1~8、附属書A及び附属書B	e)欄	ed	「一」となっていますが、JISと対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策を記載できないでしょうか？		修正採用	e)欄を「一」としているd)欄については、「技術的差異はない」を追加します。 4026~4046に記載します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4025	JSA	堤	附属書JA	a)1		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されておりません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、“0.030 mm未満の厚さの皮膜には適用しない”と規定しているが、JISでは、“0.030 mm以上の厚さの皮膜に適用する。”に変更した。技術的に差異	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4026	JSA	堤	附属書JA	a)1		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されておりません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 皮膜断面を測定する場合、ISO規格では、“0.100 mm未満の厚さの皮膜には適用しない”と規定しているが、JISでは、“0.100 mm以上の厚さの皮膜に適用する。”とした。0.030 mm以上の厚さの皮膜に適用する。”に変更した。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4027	JSA	堤	附属書JA	a)4		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されておりません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、Table2に對頂角が136°であることが記載されているが、JISでは、對頂角が13°であることを本文中に明記した。技術的差異はない。	採用		同左

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

対象規格	JIS Z 2244-1 ヒッカース硬さ試験-第1部:試験方法
------	------------------------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4028	JSA	堤	附属書JA	a)7		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 国内事情に合わせて、硬質金属の場合の除去する表層厚さを推奨値とした。技術的な差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4029	JSA	堤	附属書JA	a)7		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、試験片裏面に成形がないことを規定しているが、JISでは、硬質金属の場合の試験片厚さ下限を推奨事項とした。技術的な差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4030	JSA	堤	附属書JA	a)7		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 試験片を樹脂に埋め込む場合の試験片の硬さへの影響を考慮して、“注記 試験片を樹脂に埋め込む場合には、樹脂の硬化に伴う発熱、プレス成形の際の圧力、温度などが試験片の硬さに影響することがある。”を追加	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4031	JSA	堤	附属書JA	a)8		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、試験力下限を規定していないが、JISでは、試験力下限を追加した。適用範囲と整合しているので、技術的な差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4032	JSA	堤	附属書JA	a)8		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	“硬質金属の試験方法”に関する記載を、附属書JAから削除する。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4033	JSA	堤	附属書JA	a)8		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、表4マイクロビッカース硬さ試験に硬さ記号としてHV 0.03及び試験力F ₁ に0.294 2の記載がないので追加した。技術的に差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4034	JSA	堤	附属書JA	a)8		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、7.6で規定しているが、内容は試験方法であるので、JISでは、簡条8に移動した。技術的な差異はない。	採用		同左

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員

対象規格	JIS Z 2244-1 ヒッカーズ硬さ試験-第1部:試験方法
------	------------------------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4035	JSA	堤	附属書JA	a)8		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格では、細分簡条の題名が“金属皮膜及びその他無機皮膜”であるが、JISでは、題名に“硬さの試験方法”を追加した。技術的な差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4036	JSA	堤	附属書JA	a)8		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	国内事情に合わせて“皮膜に関する規格、受渡当事者間協定”を追加した。技術的な差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4037	JSA	堤	附属書JA	a)10		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 国内事情に合わせて、“試験報告書は、必要な場合に提出する。試験報告書には次の項目を報告する。ただし、受渡当事者間の協定によって、次のうちから選択してもよい。”に変更した。技術的に差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4038	JSA	堤	附属書JA	附属書A		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	次の文章を追加する。 ISO規格では、“硬さ記号と硬さ値と最小試験片の厚さはFigure A.1で与えられる”としているが、目的を明確にするため、JISでは、“図A.1は、硬さ記号と硬さ値とから、試験片の厚さがくぼみの対角線の1.5倍になる厚さを求めるための図である。使用する硬さ記号の直線とY軸の硬さ値との交点のX軸の値を、試験片の最小厚さとする。”に変更した。技術的	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4039	JSA	堤	附属書JA	附属書A		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	ISO規格では、“硬さの記号、HV”としているが、硬さ記号だけでは不十分なため、JISでは、“硬さ記号の表示に適用する、試験力を表すkgfの概数”に変更した。技術的な差異はない。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4040	JSA	堤	附属書JA	附属書B		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	表にないd/Dに対する補正係数を求める場合に対応するため、表にない補正係数の求め方を追加した。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4041	JSA	堤	附属書JA	附属書B e)		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	「-」であったが、次のように修正する。 日本独自の規定である。ISOへの提案をせず、そのまま維持する。	採用		同左

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員

対象規格 JIS Z 2244-1
 ヒツカース硬さ試験—第1部:試験方法
 処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4042	JSA	堤	附属書JA	附属書C		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 国内で運用されている事情に合わせて、定期点検においては、測定した値と基準片の認証値との差異の規定値を満足することが望ましいとした。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4043	JSA	堤	附属書JA	附属書C		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 試験機の検証の要求事項に合わせて、くぼみ測定装置の点検は、偏りが許容範囲を超えない場合は、省略可能であることを追加した。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4044	JSA	堤	附属書JA	附属書C		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 国内で運用されている事情に合わせて、偏りの算出式(C.1)は、硬さ測定値は、個々値ではなく平均値とCRMの硬さの差とした。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4045	JSA	堤	附属書JA	附属書H		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 ISO規格には、ISO 4516:2006にあった対角線長さに関する記載がないため、JISでは、“対角線長さ間の差異は5%以下であることが望ましい。”を追加した。	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4046	JSA	堤	附属書JA	附属書H		ほとんどが追加又は変更の内容を記載しているだけで、「JISと対応国際規格との技術的差異の理由」が記載されていません。追加又は変更の理由を記載できないでしょうか？	修正案 0.100 mm以下の皮膜を測定する場合もあるので、“ただし、受渡当事者間協定によって0.100 mm以下の皮膜を測定も可能である。”を追加した。	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

対象規格	JIS G 1211-3 鉄及び鋼—炭素定量方法—第3部: 燃烧—赤外線吸収法(追補)
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用	

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	11		ed	読点を挿入	分率(%)を次の式 → 分率(%)を, 次の式	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	11		ed	句点を削除	$m : \dots$ の量(g)。 → $m : \dots$ の量(g)	採用		同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査 (I)	原案審査 (II)	規格検討 会	三者委員 会
-------------	--------------	-----------	-----------

対象規格	JIS G1215-4 鉄及び鋼—硫黄定量方法—第4 部:高周波誘導加熱燃焼—赤外 線吸収法(追補1)
------	--

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	11		ed	読点を挿入	分率(%)を次の式 → 分率(%)を, 次の式	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	11	式	ed	丸括弧は不要(2か所)	$(m_1 - m_0) \rightarrow m_1 - m_0$	採用		同左

様式2023/4/5

会議名:1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

対象規格	JIS G 1233 鉄及び鋼—セレン定量方法2.3— ジアミノナフタレン抽出吸光光度
------	---

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	6.6		ed	数値と単位の間空白を挿入	0.1gを → 0.1 gを	採用		同左

様式2023/4/5

会議名:1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査	原案審査	規格検討	三者委員
------	------	------	------

対象規格	JIS H 1270 ニッケル及びニッケル合金一分 析用試料採取方法及び分析方
------	---

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	5.2	d) 8)	ed	字句の修正?	汚染をさせないように → 汚染されないように	修正採用	“汚染がないように”とします。	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	8.2	a) 3.1) N _c :	ed	“に”を挿入?	試験参加した → 試験に参加した	採用		同左

様式2023/4/5

会議名:1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査
 原案審査
 規格検討
 三者委員

対象規格	JIS G 1229-1 鉄及び鋼—鉛定量方法—第1部:硫化鉛沈殿分離モリブデン
------	---

コメントタイプ:ge=一般的 te=技術的 ed=編集上

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	1		te	【質問】鉛定量範囲0.01%~0.05%の場合は、どちらの定量方法を採用するのでしょうか？		回答	JIS G 1257-12-1(原子吸光法, 適用範囲:0.01%以上0.35%以下)を適用します。	同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	9.3	a)	ed	“て”を挿入？	沸騰させモリブデン酸 → 沸騰させてモリブデン酸	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	東理大	田中	9.3	b)	te	“少量のろ紙”？ 語順が逆です。	少量のろ紙(5種B)及びろ紙パ ルプで → 少量のろ紙パルプ及びろ 紙(5種B)で	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	9.4	b)	te	既に灰化しているが、加熱時間の指定は要りませんか？		回答	恒量となるまで繰り返し加熱しますので、特に時間を規定していません。	同左
三者委員会	2023/12/20	4005	鉄連		11	式	te	0.566 4	0.564 4	採用	Pb:207.2, MoO4Pb:367.14	同左

様式2023/4/5

会議名: 1=原案審査(I) 2=規格検討会 3=原案審査(II) 4=三者委員会

原案審査 (I)	原案審査 (II)	規格検討 会	三者委員 会
-------------	--------------	-----------	-----------

対象規格	JIS G 1229-2 鉄及び鋼—鉛定量方法—第2 部:鉄分離ジフェニルチオカルバ ゾン抽出吸光度法
処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用	

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査調整案		審議結果・審議内容 ・修正内容 他
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	回答・理由説明 他	
三者委員会	2023/12/20	4001	東理大	田中	目次(8.2)		ed	ページ数の間違い	3 → 4	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4002	東理大	田中	6.11		ed	漢字に変更(2か所)	わずかに → 僅かに	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4003	東理大	田中	6.15	注記	ed	JIS規格番号の間違い	JIS G 1202 → JIS G 1201	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4004	東理大	田中	8.4	b) 警告	ed	送り仮名の修正	取り扱いには → 取扱いは	採用		同左
三者委員会	2023/12/20	4005	東理大	田中	10	表2	ed	他規格の表記に合わせる?	鉛標準液添加量 mL → 鉛標準液(6.15)添加量	採用		同左